

笑顔いっぱい



広島中央保健生活協同組合 総合病院 福島生協病院

夏号
(第38号)

発行日/平成25年7月1日

発行・編集

福島生協病院編集委員会
広島市西区都町42番7号
TEL082-292-3171(代)

ホームページアドレス

<http://www.hch.coop/fukushima/>

CART(Cell-free Ascites Reinfusion Therapy: 腹水濾過濃縮再静注法)について

福島生協病院 外科部長 北口 浩

癌性腹水などの難治性腹水は患者さんを苦しめます。医師は腹水を抜くとその中の蛋白まで失い、結果として患者さんの衰弱が進むことを知っているため、これまで一般的には「腹水が貯まってでもできるだけ我慢させ、腹水を抜くのは最後の手段」と言われていました。

この難治性腹水の治療には、デンプーシャント（腹腔静脈シャント）やCART(腹水濾過濃縮再静注法)があります。

デンプーシャントは腹腔と静脈をシャントする器具を皮下に埋め込む治療です。肝性腹水に対しては時々用いられますが、癌性腹水に対してこれを行うとDIC発症の危険があります。

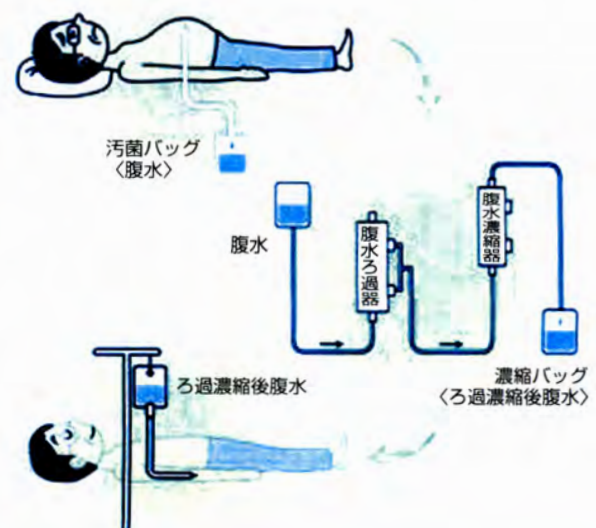
一方のCARTは、腹水中の蛋白質だけを取り出し濃縮再静注する治療です。30年前に保険適応となり、これまで主に肝性腹水に対して施行されてきました。癌性腹水に対してこれを行うと、腹水中の細胞成分が多い為、濾過器が目詰まりを起こし、すぐに濾過が出来なくなるので事実上施行不可能でした。

ところが近年、新しい方式が開発されこの問題が解決されました。従来方式の改良により、癌性の細胞の多い腹水も濾過再静注ができるようになったのです。この改良式のCARTをKM-CARTと呼び、2012年5月には厚労省に認可されました。

2012年にKM-CARTの開発者である松崎圭祐先生主宰の研修会で研修させて頂き、2013年4月に当院でも癌性腹水へのKM-CART第1例を実施しました。（ちなみに松崎先生は広島大学出身で、その昔当院にも非常勤で勤務されていたことがあると伺いました。）以下、KM-CARTについて簡単にご紹介します。

適応は、難治性腹水（肝性、癌性を問わない）。禁忌は高ビリルビン（10mg以上）の患者さんです。（5mg以上はcase-by-case、5mg以下は可能です。）粘液成分が多く、ねんちょう度の高い腹水の場合は、濾過器が目詰まりするので不可です。胸水を伴う場合は腹水と同時に抜いて、一緒に濾過再静注することも可能です。標準的には2泊3日の入院で行います。今後、難治性腹水でお困りの患者さんのお役に立ちたいと考えています。

KM-CARTの詳細につきましては「CART研究会」のホームページをご参照下さい。



これまでもご案内しておりますように、福島生協病院は、2015年の移転新築に向けて準備を進めているところです。このたび、新病院の医療構想について、診療部にて論議し、まとめましたのでご案内いたします。

【新病院 三つの魅力】

医療と介護、地域連携の要

いざという時、病床機能を有する医療機関として、地域の医療と介護を支える「要」の役割を果たします。また高機能病院とも連携して、オール広島で患者様の健康と命を守ります。

つながる医療、一層充実

健診・診断・治療・手術・リハビリ・在宅・介護と一連の活動を行います。回復期リハビリ病棟を新設して、生協全体のリハビリテーション医療の発展に努めます。それが患者様の安心を支え、働く職員のやりがい、充実感につながります。

健康づくり

保健生協・医療生協の健康づくりを健診の側面からサポートして、発展させていきます。

【診療の基本方針】

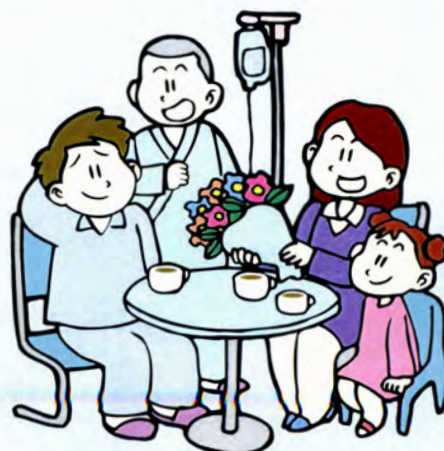
新病院・基本構想/基本設計上の特長

- 救急受け入れ病棟機能の向上（HCU病室を3つの病棟に設置）
- 生協内科クリニックとの統合（慢性疾患管理・在宅医療を新病院で）
- 回復期リハビリテーション病棟新設
- 機能的な外来配置（内科・整形・放射線を1階に、他の診療科は2階に配置）
- 健診センターの設置と他科との動線分離

これらのことを核として新たな医療構想を展望します。

在宅療養・介護を支え、高齢者の救急医療を核とした地域の総合的な医療要求に可能な限り応える、地域のかかりつけ病院です。

- ①急性期医療；軽度 - 中等度の入院。高機能病院との連携
- ②亜急性期；ポストアキュート；リハビリ、化学療法
- ③救急；軽一中等度の救急。高機能病院との連携
- ④在宅療養支援機能



【各診療科方針】

1.内科

消化器、循環器、内分泌・代謝、神経疾患の専門スタッフを有し、各分野の急性期疾患への対応から慢性疾患の管理まで幅広く、外来・入院の診療を行っています。

新病院では、生協内科クリニックと福島生協病院の二つの外来を統合し、病院内ですべての診療を行うこととなりました。いつでも専門医が対応できる体制となります。

地域医療連携室を通して予約をしていただくことも可能です。

① 消化器内科

B型、C型肝炎に対するインターフェロンや核酸アナログ製剤による治療、内視鏡的を用いた消化管および膵胆道疾患の診断や治療などを行っています。内視鏡検査では経鼻内視鏡を用いたり、希望者には鎮静剤を使用するなど苦痛の少ない検査を心掛けています。新病院では吐下血などに対するの緊急内視鏡検査も、可能な体制を構築したいと考えています。

(検査及び診療内容)

上部(経鼻内視鏡も導入)・下部内視鏡検査、内視鏡的逆行性膵管胆道造影(ERCP)、消化管腫瘍の内視鏡的治療、食道静脈瘤の内視鏡的治療、胆・膵疾患の内視鏡的治療・経皮的治療、消化管の造影検査など

② 循環器内科

(検査及び診療内容)

虚血性心疾患の検査のみならず、POBAおよびStent留置等の冠動脈形成術をおこなっています。徐脈性不整脈に対して恒久的ペースメーカー植込み術の実施を行っています。またペースメーカーの管理を行うために定期的にフォローを行っています。

また最近増加している急性心不全症候群に対する急性期加療を行い、原因精査を行い治療管理を行っています。

③ 内分泌・代謝内科

約2週間の入院で糖尿病教育、血糖コントロール、合併症精査及び全身精査を行っています。

(検査及び診療内容)

生化学検査、眼底検査、心電図、腹部超音波検査、甲状腺エコー、電流知覚域値測定検査、栄養指導、簡易神経機能検査、糖尿病教育入院など

④ 神経内科

脳・脊髄・末梢神経・筋肉の異常による様々な症状の診断と治療を行います。

(対象疾患)

脳梗塞、一過性脳虚血発作、パーキンソン病、進行性核上性麻痺、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、末梢神経障害、アルツハイマー病、脳血管性認知症、びまん性レビー小体病、前頭側頭型認知症、てんかん、多発性硬化症、重症筋無力症、多発筋炎、脳髄膜炎

顔面痙攣、眼瞼痙攣、痙攣性斜頸、脳卒中後の上肢痙縮および下肢痙縮(ボトックス療法)

頭痛症

(検査及び診療内容)

MRI、CT、頸動脈エコー、心エコー、ホルター心電図、重心動揺計、髄液検査、末梢神経伝導速度検査、体性感覚誘発脳波、視覚誘発電位、聴覚誘発電位、針筋電図、脳波、睡眠時無呼吸検査(簡易型、ポリソムノグラフィー)、脳血流シンチグラフィ(協力医療機関に依頼)、遺伝子検査(協力医療機関に依頼)

2.外科

主な手術例は胆石(腹腔鏡下胆のう摘出術)、ヘルニア、急性虫垂炎をはじめとする一般外科症例と肛門疾患です。

(検査及び診療内容)

胆石:腹腔鏡下胆のう摘出術、ソケイヘルニア:クーゲルパッチ法(1泊2日入院)、痔核は半閉鎖療法、痔瘻は開放術式がシートン法、裂肛は用指肛門拡張術(デイスার্ஜェリーやショートステイの入院治療あり)、内痔核に対するジオン法。

癌の化学療法(乳癌、大腸癌、胃癌)、癌の緩和医療、難治性腹水に対するCART(腹水濾過濃縮再静注療法)、巻爪の治療:超弾性ワイヤー(マチワイヤー)治療。

・小外傷:消毒薬を使わない処置を行っています。

・医療設備・検査:超音波メス、手術用内視鏡システム、乳房放射線撮影装置、肛門鏡ビデオシステム

3. 整形外科

一般整形外科診療のほか、外傷や骨折の救急対応を行っています。

(当科では)

四肢(上肢、下肢)の一般外傷、骨折、脊椎疾患(脊柱管狭窄症、ヘルニアなど)、四肢関節の損傷(靭帯損傷、半月板損傷、腱板断裂など)、四肢関節の変性疾患(変形性関節症など)、骨粗しょう症、関節リウマチなどを治療対象としています。

(治療)

保存治療、薬物治療、関節注射、神経ブロック注射、リハビリテーション(PT、OTが行います)、物理療法(温熱治療、電気治療、牽引など)

(手術)

四肢骨折に対する観血的骨折手術、関節鏡視下手術(肩関節、膝関節)人工関節手術(膝関節、股関節、肩関節)高位脛骨骨切り術、脊椎手術(腰椎に対する除圧術、固定術)

(検査及び診療内容)

MRI(1.5T)、X線骨密度測定検査(DEXA)、MDCT(16列)、末梢神経伝導速度検査

4. 眼科

一般眼科診療のほか、白内障を中心とした手術・糖尿病性網膜症などに対しレーザー治療を行っています。光干渉断層計(OCT)の導入で、緑内障書記や網膜黄斑部疾患(加齢黄斑変性など)の診断を進めています。

眼科疾患全般を対象に、敬遠されがちなぶどう膜疾患、眼球運動障害、視神経障害の診断・治療にも取り組んでいます。

生活習慣病の網膜血管の評価、眼の成人病といわれる緑内障の診断、高齢化に伴う白内障の眼底疾患の有無についても力を注いでいます。

(検査及び診療内容)

オートレフケラトメーター、光干渉断層計(OCT)、マルチカラーレーザー

5. 耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉の感染症、アレルギー、難聴、めまいなどの診療をおこなっています。

(検査及び診療内容)

耳:中耳炎、外耳炎、難聴(純音聴力検査、言葉による聴力検査、補聴器の相談、身体障害診断書)

めまい(平衡機能検査、脳MRI、頸部血管超音波検査、症状が強い場合は入院も可能)

めまいの頭位運動療法やリハビリ指導)

顔面神経麻痺(脳MRI、筋電図検査)

鼻:アレルギー性鼻炎、花粉症、鼻副鼻腔炎、嗅覚障害、鼻出血

口腔・咽喉:咽喉頭炎、扁桃炎、声帯ポリープ(内視鏡検査)、味覚障害、口内炎、

睡眠時無呼吸症候群(ポリグラフ検査)

補聴器相談:月2回(第2と4水曜日午後、予約制)

6. 皮膚科

当科では、皮膚科一般外来と皮膚小手術を行っています。

帯状疱疹、蜂窩織炎などの患者様の入院加療も担当させていただきます。当院の他科の先生、近隣の開業医の先生、高次医療機関の先生方との信頼関係の上で、患者様と心の通う医療を目指しています。

診断に際しましては、必要に応じて、真菌検査、アレルギー検査、パッチテスト、皮膚生検による病理組織検査を行っています。治療には、一般的な外用・内服療法の外、冷凍療法、電気焼灼を行っています。

精査、加療が必要な難治性疾患、膠原病、皮膚悪性腫瘍などの患者様には、適切な医療機関を紹介させていただきます。

7. 在宅部門

訪問診療(往診)、訪問看護、訪問介護、通所リハビリ、歯科往診などの在宅医療、介護事業を行っています。是非お気軽にご相談下さい。

8. 健診センター

受健者の利便性・快適性に配慮し、スムーズな動線で健診を受けられるよう、また待ち時間も短縮できるよう、検査・診療各科との連携を密に行います。

①検査・診療各科を回る際には、受健者と外来患者との動線が交わらないように配慮します。→健診専用階段を設置します。

②受健者の快適性に配慮し、十分な待合スペースを確保します。また、待ち時間をより快適に過ごしていただけるようなアメニティーを工夫します。

③保健指導や接遇に関する研修に積極的に参加することで、サービスの質向上につなげます。

9. 回復期リハビリテーション病棟の新設(42床)

脳梗塞、脳出血などの脳血管疾患や大腿骨骨折などの患者様に対して、社会復帰、家庭復帰のリハビリテーションを計画し、提供する病棟です。医師を中心に多職種スタッフが協力し、患者様の生活目標達成のお手伝いをさせていただきます。



新任医師紹介

皮膚科 小原 進先生

4月からお世話になっております皮膚科の小原です。身長は193cmで常に頭をぶつけないか皆さんの注目を集めています。外来にいる時間が多いです。受診してくださる患者様が最大限に満足して頂けるよう頑張ります。趣味は釣りで、誘ってください。



内科・神経内科 堀江 ノブコ先生

平成25年4月から福島生協病院に着任致しました。平成11年に広島大学を卒業し、内科と脳神経内科を専門にしております。神経内科では、脱力、感覚障害、めまい、ろれつがまわらない、物忘れ、意識障害等の全身の異常について、急性期と慢性期共に対応させて頂きます。症状の早期発見や予防にもお役に立ちたいと願っています。

研修医 鹿沼 優先生

この4月から研修させていただいております、鹿沼優と申します。東京での出版社勤務を経て、この度広島に引っ越してきました。

今年37歳になるあまり若くない研修医ですが、皆様のお役に立てるように頑張りますので、よろしくお願い致します。



●基本理念●

私たちは、患者さんの立場に立った医療を実践します。

基本方針

1. インフォームド・コンセント（説明と意思決定）を重視し、信頼される医療を提供します。
2. 教育・研修活動をすすめ、医療、看護、接遇の向上につとめます。
3. 地域の人々とともに、医療、福祉、介護のネットワークづくりをすすめます。

編集後記

●猫を飼い始めて4年、いつの間にか3匹に。大の字で猫たちと昼寝するのが幸せな時間です。(H)

●今年の夏休みを利用して、3年ぶりにディズニーランドへ行く予定です。楽しみすぎてワクワクがとまりません。(T)